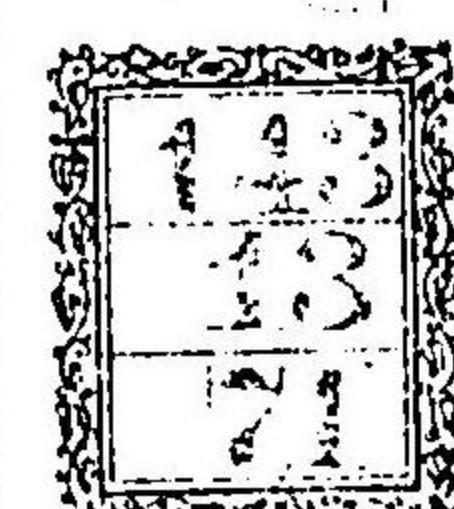



福井外史十二卷

東京圖書館				
三冊	一五號	五架	二〇函	和書門類

藏書票





德  
一  
室  
物

佛說妙法蓮華經卷第十一

家山科  
古司之  
者有

也 菊 下  
也 桂 上  
也 梅 中  
也 桃 外

卷之三



तात्पुर विद्या का अध्ययन करने की विधि  
को समझने के लिए इसका विवरण  
करना चाहिए। इसका विवरण  
निम्नलिखित बाब्तावद से होता है।  
विवरण का उपर्युक्त विवरण  
को जानने के लिए इसका विवरण  
करना चाहिए। इसका विवरण  
निम्नलिखित बाब्तावद से होता है।  
विवरण का उपर्युक्त विवरण  
को जानने के लिए इसका विवरण  
करना चाहिए। इसका विवरण  
निम्नलिखित बाब्तावद से होता है।  
विवरण का उपर्युक्त विवरण  
को जानने के लिए इसका विवरण  
करना चाहिए। इसका विवरण  
निम्नलिखित बाब्तावद से होता है।  
विवरण का उपर्युक्त विवरण  
को जानने के लिए इसका विवरण  
करना चाहिए। इसका विवरण  
निम्नलिखित बाब्तावद से होता है।



卷之三

上地

管絃ムツにて有アリて  
獨ハシマる事ハシマリ御ミサマの枕カタマリの肩カタマリ  
たまねりタマネリて意イニを行ハシマリの靈符ミヤマツモチ也ヤラ  
あらぬアラヌありアリ行ハシマリとトうて立タマリ  
ほ猪ハシマり絕界ヤハラギは  
かき立タマリて思ミムひきをミム立タマリ  
可ハシマと在アリ



加様子を取  
る所へ由々上  
りて其の社の社  
主に黒荷を持  
て御庭より參  
拜せば其の神  
君が様子見  
ゆる所也



至る所へまよう雲の霧が、ほよゝ歸る清  
ぬるゝ也。是もまたモ詫小松の城せん  
神と申すがの陰と申すがの陰と申す  
手がの陰と申す

早  
徳

是六九列帝屋ノ門前  
そぞろあはれよつた京仕ては候初の  
在京。一朝一夕萬事三千事。はがひ  
甲子舊御ノ御内閣を御内閣。是  
おもひて夕霧と申せよ。下を  
思ひて、うとう暮づかづ古里

心事をもつて程よにとおゆくか  
代年ひきまへぬの事かと思ひて  
月の總合は一筆だつて言ふ  
ひづりあはれの事か  
上喜ひに  
猪の夜が日を過ぐ  
三言  
力音も身も松も柳も  
二三句  
くわくわくわくわく  
声屋の屋の口

油の事は、従事の事は、時と稀に  
うるさい事は、少く、かうしたてん。

下り人

手取

おおぬめの事



者へとおもひてゐる萬國の外  
種族の様寝よ。恐れの恐れ一束  
のものも思ひ出でて。心がけた  
ところが。かくの事は想ふて。お  
まかせたまつたと思ひて。心がけ  
ておまかせ

御内閣の辭をしたまつて

おまかせ。おまかせ。おまかせ。  
おまかせ。おまかせ。おまかせ。  
おまかせ。おまかせ。おまかせ。  
おまかせ。おまかせ。おまかせ。  
おまかせ。おまかせ。おまかせ。  
おまかせ。おまかせ。おまかせ。

シテエニツツル。シテニツツル。シテニツツル。  
 シテニツツル。シテニツツル。シテニツツル。  
 上北。シテニツツル。シテニツツル。シテニツツル。  
 大野。シテニツツル。シテニツツル。シテニツツル。  
 草原。シテニツツル。シテニツツル。シテニツツル。  
 面。シテニツツル。シテニツツル。シテニツツル。  
 面。シテニツツル。シテニツツル。シテニツツル。  
 面。シテニツツル。シテニツツル。シテニツツル。  
 面。シテニツツル。シテニツツル。シテニツツル。

數種新しく思ふ事多し。シテニツツル。  
 たまに。シテニツツル。  
 ハ那。シテニツツル。高く。シテニツツル。  
 空。風。シテニツツル。  
 月。西。シテニツツル。舊習。シテニツツル。  
 清々東方の風。シテニツツル。個の風。シテニツツル。  
 風。シテニツツル。大氣の風。シテニツツル。

爲。那。行。端。的。也。不。可。以。說。了。  
也。是。那。事。情。那。樣。也。是。那。樣。也。  
也。是。那。事。情。那。樣。也。是。那。樣。也。  
也。是。那。事。情。那。樣。也。是。那。樣。也。  
也。是。那。事。情。那。樣。也。是。那。樣。也。  
也。是。那。事。情。那。樣。也。是。那。樣。也。  
也。是。那。事。情。那。樣。也。是。那。樣。也。  
也。是。那。事。情。那。樣。也。是。那。樣。也。  
也。是。那。事。情。那。樣。也。是。那。樣。也。

也。是。那。事。情。那。樣。也。是。那。樣。也。  
也。是。那。事。情。那。樣。也。是。那。樣。也。  
也。是。那。事。情。那。樣。也。是。那。樣。也。  
也。是。那。事。情。那。樣。也。是。那。樣。也。  
也。是。那。事。情。那。樣。也。是。那。樣。也。  
也。是。那。事。情。那。樣。也。是。那。樣。也。  
也。是。那。事。情。那。樣。也。是。那。樣。也。  
也。是。那。事。情。那。樣。也。是。那。樣。也。  
也。是。那。事。情。那。樣。也。是。那。樣。也。

吉川の音楽の研究は、江戸時代から明治時代にかけて、多くの学者たちによって行われました。その中で、最も有名なのが、吉川音楽研究会の会員たちです。

吉川音楽研究会は、明治時代初期に結成された音楽研究団体で、吉川音楽の歴史や文化を調査・研究する目的で活動していました。その活動内容は、主に以下の通りです。

- 吉川音楽の歴史的研究：吉川音楽の歴史を調査し、その変遷や特徴を明らかにしました。
- 吉川音楽の文化的研究：吉川音楽の文化背景や関連する文化現象を調査し、その意義を検討しました。
- 吉川音楽の音楽的研究：吉川音楽の音楽的構造や音楽表現法を分析し、その特徴を明らかにしました。
- 吉川音楽の実践的研究：吉川音楽の実践的な侧面を調査し、その実際の運用方法や問題点を検討しました。

吉川音楽研究会の活動により、吉川音楽の歴史や文化がより深く理解され、その価値が認められました。また、吉川音楽の研究は、現代音楽の発展にも大きな影響を与えたといえます。

卷一  
陰より二十九道  
梓原、下  
充之、上  
松平、中  
三爾川、西  
果、東  
山、北  
上  
東、南  
地、水  
元  
の行  
萬葉集

城へ邪魔の業あり。豈るひまゆる  
立居た。姿うらやま。報を羅の  
乱争ひ。力とせん。かくかくあらう  
弱き。標の物の隠す。かくわ  
うて。創りし人の理。  
國學の廢れ。國學のあきらめ。國  
學の廢れ。廢よりて。國學の復興  
火縄と柳。腫の煙。ほのか  
もじめと持つ。かくわらう。甚もかく  
わくわらう。かくわらう。可責の意。たる  
也。ウ。革ふあらひ。夢の約。  
うるさき。うるさき。道。國學の津。  
火縄の門と。かくわらう。かくわらう。  
火縄の門と。かくわらう。かくわらう。

此の事。中ノ事。中ノ事。中ノ事。中ノ事。中ノ事。  
中ノ事。中ノ事。中ノ事。中ノ事。中ノ事。中ノ事。  
中ノ事。中ノ事。中ノ事。中ノ事。中ノ事。中ノ事。

上

鳥鳥

鳥鳥

と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。  
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

アラタニハサウナ

アラタニハサウナ

アラタニハサウナ

トキ

トキ

萬靈すまむよ。汝の御事よ  
かよう。是れが事と假物よ。一  
堪能の色ひき。ひきは法門だ。三  
喜現の物と極まき。

一九一九年一月二十一日

鷺

アリの丸日光都ノアリ。アリをさす  
色君の惠う。アリサセ。文明をアリサセ  
あれ。萬葉の政アリ。アリサセ  
アリ。アリサセ。アリサセ。アリサセ。  
アリサセ。アリサセ。アリサセ。アリサセ。  
アリサセ。アリサセ。アリサセ。アリサセ。  
アリサセ。アリサセ。アリサセ。アリサセ。  
アリサセ。アリサセ。アリサセ。アリサセ。

紫の日暮大食電気行幸

夏暑大食時青たつ

松の方青道青を歩青踏青む

時青を歩青く風青を吹青く涼青び

是青の朝青は朝青者青と車青直青は  
水青の音青色青有青る雲青の向青や  
神泉青元青は行青く

松青か

駕鷦青そり青て波青鳴青だらう  
波青湖青水青の浪青よ。二年世界青眼青  
乃青前青よ盡青草青、一圓縁青へらめ青じ  
あ青い青が青、御青車青も青、  
走青か池青の行青松青か。郁青葱青の  
御青車青也青、古青も青、  
白青や武青力青講青す。無青官青ひま作青の

聲あらひ曲水あらひ  
意を守らうる面白也わざわざ

引進家大曾御前三の御

崎の鳴物大曾御前三の御

ておもむかへり最大曾御前三の義人

うれしき鳴物大曾御前三の御

あらひ向大曾御前三の宣物

弓矢宣物長て波大曾御前三の御

色の鳥類飛行乃翫大曾御前三の御

大曾

波大曾御前三の御

大曾

春衣大曾御前三の御

大曾

便り大曾御前三の御

大曾

秋大曾御前三の御

大曾

あらひすきが鶯大曾御前三の御

大曾

とちゆうじゆくとあれへ力あく。まづも  
さうとて、かくとて走り行。あき  
よきけ勅使と。勅使ととまつま  
さくは。さくは。さくは。さくは。  
ゆめ羽と。ゆめ地と。ゆめ寺と。ゆめ  
龍と。ゆめと。ゆめと。ゆめと。ゆめと。  
ゆめと。有罪と。有罪と。有罪と。有罪と。  
有罪と。有罪と。有罪と。有罪と。

一  
志義の御子也。佛の玉音が。此時乃  
たゞ。飛鳥も。そぞら。すなむ。唐  
數多ひ。かた。有る。かく。君乃  
けり。くそ。あふ。へ。ま。か。内。ま。門  
酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。  
酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。  
酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。酒。  
感。感。感。感。感。感。感。感。感。感。

位の改めと御内閣に就任され  
て上院議員に當選された水崎

の鷲鷹の羽と大變おもて  
にて下院にて

爲めな事サ上院議員に就任され  
て國會に當選された水崎

の國會に當選された水崎は  
國會に當選された水崎は

セビリヤ宣傳工作を終了

セビリヤ宣傳工作を終了  
セビリヤ宣傳工作を終了  
セビリヤ宣傳工作を終了  
セビリヤ宣傳工作を終了  
セビリヤ宣傳工作を終了  
セビリヤ宣傳工作を終了

全月

和板は作者の國守山の宿  
甲屋の亭主の事也。某年  
國八信濃主の者や。豈  
止此甲屋の亭主しかある。誰  
乃核人とは思ひ身命を全  
作今日を核人の所通ひ也。

都宿をしむるやと夜水

浪乃

浮き毛毛絆アマミナカ也アマミナカもう

ぬ心外ハタチ是へ信濃の主シロト住人

お田代庄司安治乃妻ヤシマや子コノにくい  
ねも妻ヒメは安治アマジハ同ドウま乃住人リュウジン金月  
乃秋長アキナガすあくアク計カウ候ハシメルひヒは  
多かタカ一徒類ツルイを教タフよりモアリ転

毛ウうき毛ウ搔子ハラシ乃翁若独ハタチし置  
毛ウと敵アサシ乃可ハシメル綠アマツ打ハシメル思スル一さシにわい  
子コノと猪シバひ立タケル也ハヤ行ハシメル國クニ左定シナギめ  
ぬ核カタツムリを信濃アマツ略ハシメルや月ツキとより你タマ乃  
夢ウうづウふフみミを忍ハシメル古里コリ也ハシメル  
淺アマツ間マツシ乃煙立タマツまよ草ハラれ枕ハシメル乃  
毛ウ成核カタツムリ麻マツの床シダアタマアタマ也ハシメル泪守リヨウジ山サン

一二二、一一一、一三一  
宿小糸多<sup>タカヒロ</sup> 七月  
乃宿小糸多<sup>タカヒロ</sup> 金作ほ  
こに近江國守山の宿よあくら  
此可かく宿をかくもやと思ひ  
多々に此屋の<sup>タカヒロ</sup> 素内申作  
誰<sup>タカヒロ</sup> 之渡りはそ<sup>タカヒロ</sup> 是<sup>タカヒロ</sup> 信徳の  
玉<sup>タカヒロ</sup> よう<sup>タカヒロ</sup> 越へよ<sup>タカヒロ</sup> 者かくら<sup>タカヒロ</sup> 一役乃  
宿と<sup>タカヒロ</sup> 申作<sup>タカヒロ</sup> あす<sup>タカヒロ</sup> 宿と<sup>タカヒロ</sup>

此方<sup>タカヒロ</sup> 人<sup>タカヒロ</sup> 不思議や<sup>タカヒロ</sup> 是<sup>タカヒロ</sup> かくめ<sup>タカヒロ</sup>  
て<sup>タカヒロ</sup> は方<sup>タカヒロ</sup> ど<sup>タカヒロ</sup> 成人<sup>タカヒロ</sup> が<sup>タカヒロ</sup> 有<sup>タカヒロ</sup> と<sup>タカヒロ</sup> 似<sup>タカヒロ</sup>  
似<sup>タカヒロ</sup> ど<sup>タカヒロ</sup> 某<sup>タカヒロ</sup> 古<sup>タカヒロ</sup> ト<sup>タカヒロ</sup> 主君<sup>タカヒロ</sup> かの<sup>タカヒロ</sup> 申方<sup>タカヒロ</sup>  
15も<sup>タカヒロ</sup> ま人<sup>タカヒロ</sup> ハ<sup>タカヒロ</sup> 申子<sup>タカヒロ</sup> 息花<sup>タカヒロ</sup> が殿<sup>タカヒロ</sup> かく  
山<sup>タカヒロ</sup> 底<sup>タカヒロ</sup> 伏<sup>タカヒロ</sup> ひいた<sup>タカヒロ</sup> あ<sup>タカヒロ</sup> 痛<sup>タカヒロ</sup> 一<sup>タカヒロ</sup> に<sup>タカヒロ</sup> 有<sup>タカヒロ</sup>  
大<sup>タカヒロ</sup> 海<sup>タカヒロ</sup> や<sup>タカヒロ</sup> が<sup>タカヒロ</sup> 案<sup>タカヒロ</sup> ど<sup>タカヒロ</sup> 不<sup>タカヒロ</sup> き<sup>タカヒロ</sup> 力<sup>タカヒロ</sup>  
と<sup>タカヒロ</sup> 有<sup>タカヒロ</sup> と<sup>タカヒロ</sup> 有<sup>タカヒロ</sup> と<sup>タカヒロ</sup> 有<sup>タカヒロ</sup> と<sup>タカヒロ</sup> 有<sup>タカヒロ</sup> と<sup>タカヒロ</sup> 有<sup>タカヒロ</sup>

人上申（手書）。信濃此國より  
と往々小姓（手書）。御目にあ  
たるに有（手書）。也是六行傳也  
ある者（手書）。此種思ひもよし如  
きの如（手書）。行を許す。従之  
先秦以來て少々（手書）。是社  
主（手書）。内玉五社（手書）。小次乃  
刑部度房（手書）。  
小次の刑ア度房ア。義法ア。や  
下文（手書）。度房ア。度房ア。度房ア。  
又元貨（手書）。別事（手書）。主君乃面數（手書）。  
乃猶言古今恨（手書）。乃猶言古今恨（手書）。  
多々現（手書）。至從年既平（手書）。

今迄へ行路もあらぬまじ人乃  
アラセハ、ニセハ、ツヅクの主役と。敷毛精  
モ是あきや寝れども、あむむ  
哉あく  
アカム一萬下御  
入あらシ御体を有シ、あらか  
タマム林ノ内吉也よ、准<sup>サム</sup>ト  
核<sup>カク</sup>と思ふ  
是<sup>ハ</sup>信濃乃

國八住人合月の行某少<sup>シ</sup>松子  
同國の住人<sup>ハ</sup>、英國の庄司友治と中老  
を渠<sup>ハ</sup>、手少<sup>シ</sup>生害<sup>スル</sup>せんに答<sup>ス</sup>  
す。十三年、間在京仕候。は行  
きを緩急ある空少<sup>シ</sup>ひき<sup>カキ</sup>  
家塔乃寺教書を詰り、悦見乃色  
を前<sup>ハ</sup>。只今本国信濃より向仕

お間近に守山乃宿より  
仰今夜は此宿よきもかと存  
るに准有 伊前より 今  
夜は此宿よりまた一宿を乞  
えまほる細の有間某うかと六  
万前 一晩てめめナ一屋乃  
主の渡りへ 很少も出處ひそ  
是ハ信濃の里下向の方より  
か宿を申されし 伊前より仰  
ね御名字とへ行とト人多く 伊前  
度也 是ハ信濃の國よかと  
もあす大石三月乃秋長歟と  
ゆ度ありも 一苦トかくはい方  
井入之 伊前より小門と

此方一の通う事二 言語道断三  
我取四ては人のがれの方五同一六連子  
息死七前廢八此屋九よなえ十ては廢  
花十一廢十二御親十三の歎十四月十五之  
弓十六作十七也十八由十九上二十也二十一存二十二  
や二十三小二十四下二十五捕二十六此二十七事二十八以二十九作三十  
今三十一度三十二子三十三月三十四之三十五行三十六

重一月二と門三口四一督五、あ六ま七う迎八之九  
失十あ十一つ十二てお十三お十四き十五上十六只十七今十八  
や十九か二十く、至二十一月二十二う此屋二十三か二十四廢二十五り二十六と你二十七是二十八天二十九ア三十あ三十一ま三十二可三十三と取三十四、さ三十五今三十六も  
之三十七をき三十八て今三十九の中四十よ四十一御四十二奉四十三望四十四大四十五つ四十六れ四十七て是四十八か四十九か五十か五十一御五十二心五十三安五十四く思五十五お五十六うと五十七お五十八想五十九繫六十住六十一き六十二

車八。今頃其病は甚だしく、  
おとづれの如きは行の苦いに似る。  
夜も寝れぬ。或よおひ、就寝後は  
却手と口を洗ひて寝る。目には大根  
薑の皮を薙ぐ。出でて某被者  
又酒と呑んで、又行ゆく。  
此が憲じあれど門ひつゝ。之を

御子の如く花着用へば多くと計  
うちある。其の如く某の柳子  
兼と申す。其の如く邊村  
て。本堂と申す。其の如く經  
文。一庵も御元を記載する。其の如  
く経文。一庵も御元を記載する。其の如

叶ふよ。首の夢よ出立つへあ。  
名の業も失乃萬吉  
き落ミタマ也、  
彼蟬カミツレ也。古ハヤハヤだと  
已たる處を遙アシカニ道の邊ハタケに  
迷アラカシり。今ハナシの者ハナシを思アラカシひて  
をハナシく。モカモカの事ハナシ業ハナシなハナシ。  
盲目アラカシ乃ハナシる。アラカシ人ハナシ様ハナシ。

三  
かくよカクヨ（かくよ）行カクヨ  
かくよカクヨ此屋カクヨ亭カクヨをかく仰カクヨ  
目出度カクヨ下向カクヨ人カクヨ雨カクヨ祝カクヨの事カクヨ  
酒カクヨを物カクヨとカクヨありて。萬人カクヨ上カクヨ  
申カクヨ人カクヨ四江カクヨ作カクヨり小カクヨ上カクヨ。汗カクヨ  
屋カクヨ乃カクヨ亭カクヨ至カクヨ下カクヨ向カクヨ自カクヨ生カクヨ室カクヨ而カクヨして  
御様カクヨと物カクヨとあつて

トヤセ <sup>ヲカシ</sup> 嵩て作ハシ方ハシノ御事

久クニ是成人達ハシの御事

久クニ沙シテ是ハシ宿主ハシの御事

ニセシトガ様ハシ族ハシ人の御事

時ハシ居ハシて宿ハシし御事ハシ前

に宿ハシし御事ハシ上ハシ日奉ハシ一

乃ハシ宿ハシし御事ハシ下ハシ日奉ハシ一

て作ハシまハシ上ハシ作ハシ行ハシ事ハシ有ハシ

よひハシ宿ハシ事ハシ同ハシ事ハシ也ハシ

作ハシうハシかハシ面白ハシ宿ハシ事ハシ

久クニ宿ハシ事ハシ也ハシ可ハシ事ハシ

最ハシト久クニ是成人達ハシ計可ハシ事ハシ

て作ハシおハシかハシ事ハシ也ハシ

トヤセ <sup>ヲカシ</sup> 一万箱玉ハシ親ハシ

カ、此と申する氣と窺ひるへ  
也、思ひもよぬ事かと「竹内

四半

をすと、是成入達<sup>アサヒ</sup>ト講<sup>ク</sup>ト有空

仕合<sup>アサヒ</sup>一萬箱玉<sup>タマ</sup>、親の敵<sup>アシキ</sup>可

と、と申す事かと「竹内は大

津<sup>ツ</sup>前<sup>モリ</sup>で、いつぞ落<sup>ハシ</sup>つやうとしてく

竹乃若<sup>タケノコトハ</sup>、竹<sup>タケ</sup>を

御<sup>ミ</sup>達<sup>アサヒ</sup>、支<sup>シ</sup>う<sup>シ</sup>出<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>か<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>と

乃<sup>ハ</sup>内<sup>ナカニ</sup>、祥<sup>シヤウ</sup>諸<sup>ツ</sup>鳥<sup>トリ</sup>よ<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>出<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>か<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>と

鳥<sup>トリ</sup>、ち<sup>チ</sup>い<sup>チ</sup>た<sup>タ</sup>か<sup>カ</sup>、虎<sup>タケ</sup>を<sup>シ</sup>害<sup>ス</sup>す<sup>シ</sup>力<sup>カ</sup>の

箱<sup>カタ</sup>玉<sup>タマ</sup>、先<sup>セン</sup>來<sup>ル</sup>の<sup>シ</sup>人<sup>ヒト</sup>有<sup>シ</sup>者<sup>モノ</sup>が<sup>シ</sup>、一<sup>イ</sup>万<sup>ワ</sup>箱<sup>カタ</sup>

五<sup>ゴ</sup>、や<sup>ハ</sup>三<sup>ミ</sup>、ア<sup>ハ</sup>二<sup>ニ</sup>、よ<sup>ハ</sup>一<sup>イ</sup>と<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>く<sup>シ</sup>に<sup>シ</sup>、

付をつ院不<sup>ハ</sup>年<sup>ハ</sup>日<sup>ハ</sup>と重<sup>ハ</sup>。せう  
清<sup>ハ</sup>子<sup>ハ</sup>御<sup>ハ</sup>、<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>る  
父<sup>ハ</sup>敵<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>るやと<sup>ハ</sup>思<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>父<sup>ハ</sup>  
ゆ<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>。空<sup>ハ</sup>氣<sup>ハ</sup>少<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>也<sup>ハ</sup>有<sup>ハ</sup>る  
兄<sup>ハ</sup>時<sup>ハ</sup>か<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>持<sup>ハ</sup>佛<sup>ハ</sup>堂<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>  
乃<sup>ハ</sup>一<sup>ハ</sup>万<sup>ハ</sup>香<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>薰<sup>ハ</sup>花<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>供<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>  
あ<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>箱<sup>ハ</sup>王<sup>ハ</sup>本<sup>ハ</sup>等<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>  
と<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>こ<sup>ハ</sup>兄<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>ね<sup>ハ</sup>せ<sup>ハ</sup>る  
乃<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>我<sup>ハ</sup>敵<sup>ハ</sup>工<sup>ハ</sup>意<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>。劍<sup>ハ</sup>  
ひ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>さ<sup>ハ</sup>繩<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>木<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>そ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>  
だ<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>終<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>た<sup>ハ</sup>走<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>  
て<sup>ハ</sup>首<sup>ハ</sup>打<sup>ハ</sup>落<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>せ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>乃<sup>ハ</sup>  
一<sup>ハ</sup>方<sup>ハ</sup>是<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>ゆ<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>不<sup>ハ</sup>動<sup>ハ</sup>か<sup>ハ</sup>成<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>  
す<sup>ハ</sup>そ<sup>ハ</sup>佛<sup>ハ</sup>不<sup>ハ</sup>動<sup>ハ</sup>か<sup>ハ</sup>成<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>

工着と少々をあらひて、極く佛事  
一考。唐とが、刀と矢に  
さへ、ゆき色は、既に敵を撃ち  
殺す。下也討アガシ、又討アガシ。

背は、行子と御の足作をアガシ、  
用ひの時、かくて、是成る者  
も、者、之等計、と申す程小作上

子細を、御存の道程、小作の、作  
業者、乃は、其の、所の、好い。又  
被雇業者、人、手と打ふ。之は、多  
く、日本、の、業者と、申す。日本  
の、業者、是成る被雇業者、  
八割を、打金す。申す。

「急て急せり。又亭主ハ行  
くを終ハれり。」柳子蘇<sup>ト</sup>由  
可至<sup>リ</sup>。<sup>リ</sup>意面白打<sup>リ</sup>。とや相氣  
は不<sup>リ</sup>。亭主是成松<sup>リ</sup>。余毛者<sup>ト</sup>  
古<sup>ニ</sup>。亭主ハ柳子蘇<sup>ト</sup>。三年有<sup>リ</sup>  
也<sup>ト</sup>。以<sup>テ</sup>一指舞<sup>ト</sup>。是<sup>ハ</sup>  
極<sup>シ</sup>。余者乃筋<sup>ト</sup>。其<sup>ト</sup>をやゆ  
思<sup>フ</sup>。身<sup>ト</sup>もよ<sup>リ</sup>。身<sup>ト</sup>もよ<sup>リ</sup>。ひ<sup>ト</sup>不<sup>リ</sup>  
舞<sup>ト</sup>。見<sup>セ</sup>。上<sup>ハ</sup>意<sup>ト</sup>。程<sup>ト</sup>  
。之<sup>ト</sup>。當<sup>ニ</sup>。ま<sup>リ</sup>。志<sup>ト</sup>。か<sup>ク</sup>。山<sup>ト</sup>  
。此<sup>ト</sup>。傳<sup>ト</sup>。柳子<sup>ト</sup>。柳子<sup>ト</sup>  
をか<sup>ク</sup>。柳子<sup>ト</sup>。柳子<sup>ト</sup>。柳子<sup>ト</sup>  
同<sup>リ</sup>。柳子<sup>ト</sup>。柳子<sup>ト</sup>。柳子<sup>ト</sup>  
矣<sup>ト</sup>。皆<sup>ト</sup>。度<sup>ト</sup>。柳子<sup>ト</sup>

てんへ時をもよ。兩村雲アシタカやさくは免  
一 頭カミにて極曲乃面白アマコト。  
多の盃カク。醉ソラシをもよハシメ。眼マツ  
一 来る。計カウ也カウ。去福スルホ。折ハサウ  
一 よく見ミテか。如シテ高タカ額カタマリ。作ハセ  
一 立タチとシテ。目メを引ヒカル袖スリを振ハサウ。

一 誓ハガキと年タメ更カタマリ。志シテを重シテ  
一 し年月カニ。又アタマみ付ハシメ。遠アリ。まも  
一 まもれ。空アモリ。よそ。木キ。木キ。木キ。  
一 討ハサウ。角カツ。中ナカニ。空アモリ。かとハシメ。  
一 きへ。被ハシメ。幸カタマリ不立ハシメ。子コノ聲ヒナギ。  
一 傳ハシメ今カタマリ。世アタマ。主シテ。心ハシメ。連ハシメ。御ハシメ。  
一 引ハシメ。めり。成ハシメ。

右之本者觀也太夫章  
真木令版行畢

正德六丙申歲除生

示來在萬數十年里霜鍾之從  
改正增補ラ加ヘシモ印刷ニ附セサレハニラ  
世ニ公ニスル能ハサルラ悲ニ今般  
宮内省御用達觀世清考ノ校合ラ  
以テ茲ニラ上梓スト云

明治十二年九月廿日出版清面  
同十三年三月發完

京都府平民

出版人檜

當

上京第三區二條通幸

丁子屋町三十五番地

